

歩きに歩いた1200キ 貯筋通帳満期で笑顔の表彰

ウォーキングで体力づくりと健康維持に努めてもらおうと、阿南市が平成17年度から取り組んでいる「生き生き市民の元気になるウォーキング」で8人目の達成者があり、5月25日、市から健康増進の認定証と記念品が贈られました。

このウォーキングは、市内に設けた16のウォーキングコース（1コース10キ）を完歩するごとに1個のスタンプを押して、1200個貯まったら満期となり、健康増進の認定証と記念品が贈られます。

友人に誘われ2年4カ月をかけて1200キを完歩した加藤繁子さん（75歳・宝田町）は、「景色の移ろいやまちの人々とのふれ合いを楽しみながら歩きました。歩くことで肩こりや腰痛が軽減され、健康維持につながっています。」と、コメントに充実感が漂っていました。



満期になった貯筋通帳を手に喜びを語る加藤さん。

県内初の防災公園が開園 一次避難施設に指定

地震・津波対策として平成21年度から整備を進めてきた橘地区防災公園の開園式典が6月9日に行われ、関係者や地元住民約300人が開園を祝いました。

式典で岩浅市長は、「関係機関や地元の方のご協力を得て完成することができました。平時には地域コミュニティの拠点として、また有事には命を守る公園として利用してください。」と式辞を述べました。

同公園の避難圏域は半径500メートルと設定され、圏域内人口約1580人すべてを収容することができ、6月8日には、阿南市地域防災計画における一次避難所に指定されました。



防災公園の開園は県内では初めてです。

那賀、美波町からも参加 成人大学講座が開講



市政報告をする岩浅市長と受講生の皆さん。

地域の歴史や文化などを学び地域社会への貢献と受講生相互の親睦を図る阿南市成人大学講座が、5月23日にひまわり会館で開校し、申込者190人のうち、163人が参加して開校式が行われました。

本講座は、今年度から阿南・那賀・美波定住自立圏連携事業にも位置づけられ、那賀町や美波町からも参加がありました。開校式で鳥運営委員長は、「成人大学とかけまして金環日食ととく、その心は、光輝いております。」と、即興なぞかけで受講者を励ましていました。

開校式に引き続き行われた第1回講座では、岩浅市長による市政報告が行われ、定住自立圏連携事業がめざすところやその取組、市が進めている大型事業の進捗状況などについて説明があり、受講者は熱心に耳を傾けていました。

講座は、来年2月21日までの間、9回の本講座と10回の特別講座が行われます。

地域防災の要 消防団 操法大会で技術と士気を高める



地域防災の要、消防団員の操法技術の向上と士気の高揚を図ることを目的に、2年に1回開催されている消防操法大会が、6月10日、阿南市消防本部で行われ、ポンプ自動車の部では加茂谷7班が、小型ポンプの部では加茂谷1班がそれぞれ優勝し、小型ポンプの部で2位となった加茂谷6班とともに7月22日の県大会に出場することになりました。

大会には14分団22班が参加し、ポンプ自動車の部、小型ポンプの部で操法が行われました。メンバーを総入れ替えして若返りを図った加茂谷1班は、前回2位の悔しさをばねに昨年9月から月3〜4回の練習を重ね、見事栄冠に輝きました。指揮を務めた幸田敏宏さん（30歳・楠根町）は、「8割程度のできでしたが優勝できてよかったです。市の大会はあくまで通過点。全国大会入賞をめざし、県大会に向けて俊敏性と動きの精度を高めていきたいです。」と喜びを語っていました。

県内初! 3カ所の海岸で 同日にウミガメの 上陸を確認



5月25日に蒲生田海岸に上陸したアカウミガメ。(岡本憲治さん提供)

アカウミガメの上陸地として知られる中林、北の脇、蒲生田の3海岸で、5月25日、今季初となるアカウミガメの上陸が確認されました。昨年比3日遅れですが、同日に3カ所で上陸が確認されたのは、県内では初めてです。

上陸したのはいずれもアカウミガメで、蒲生田海岸では、市のウミガメ観察員の棚橋コズエさん（樺町）が、午前5時ごろ、海岸に上陸しているところを発見。「産卵中と思い、しばらく遠くから見守っていました。産卵していませんでした。」と残念でした。また、6月3日には、同海岸で約180人のボランティアによる清掃活動が行われました。

その1週間後の6月1日、蒲生田海岸で二度目の上陸があり、今季初の産卵が確認されました。キツト海亀部会長の鎌田武さんは、「毎年、孫が生まれるような思いで待ち望んでいます。産卵が確認できてうれしいです。」と話していました。



清掃活動に汗を流す阿南市サーフィン連盟の皆さん。



アカウミガメの産卵を確認した鎌田武さん。

島に夏の訪れを告げる イシマササユリ

伊島に自生する希少植物イシマササユリを保護しようとして、伊島中学校生徒会では、毎年、生育調査を行っています。6月7日、地域住民も参加して、島内4カ所の生育地で調査を行いました。

生育調査は、つぼみもしくは開花している花にピントの付箋を、葉のみは黄色の付箋を付けて、残った付箋の枚数から個数を集計します。その結果、全体で1804本（内、開花もしくはつぼみ856本）となり、昨年に比べ241本減少していることが分かりました。1年生の川西 壘さんと粟田智之さんは、「ササユリが咲く季節は特別な季節。数が少なくなってきたのはさみしいけれど、新野高校生の皆さんとパイオ球根による移植活動などを通じて、これからもササユリを守っていききたいです。」と話していました。

島に夏の訪れを告げるイシマササユリ。島の慣例として採取された数本のササユリが、生徒たちの手で漁協や郵便局に届けられました。

